

米国・カナダ・オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し状況

● 米国：2026年7月10日公表 USDA Crop Production

6月農業概況（抜粋）

米国の主要な農業生産地域の6月の気象状況は、ところによりまちまちであった。米国西部及び中部では、6月の平均気温が平年並みをほぼ上回った。これと対照的にロッキー山地北部及び大平原地域、オハイオ溪谷並びに米国南東部の各地域では、6月の平均気温が平年並みを下回った。その一方で、太平洋沿岸北西部及び大平原地域の大部分では、6月の降水量が平年並みを下回った。平年並みに比べて乾燥した状態は、大西洋沿岸地域の大部分及び米国西部の多くの地域に広がっており、これらの地域では土壌水分含有割合が低下している。これと逆にミシシッピ・デルタ地域の一部及びコーンベルト地帯では、相当な降水量を記録しており、6月の平年並みの降水量の2倍近くに及んだ地域もある。

表1 米国の豆類種類別作付・収穫面積

作物名	作付面積 (ha)	作付面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収穫面積 (ha)	単収 (t/ha)	単収 (t/ha)	生産量 (t)	生産量 (t)
	2025	2026	2025	2026	2025	2026	2025	2026
ヒヨコマメ	216,910	195,060	210,560	189,480	1.47		310,440	
乾燥インゲンマメ	552,810	469,850	540,100	457,300	2.26		1,218,120	
乾燥エンドウ	474,700	423,710	430,190	405,090	1.95		838,240	
レンズマメ	433,830	302,300	384,050	283,690	1.25		478,860	

作物生産量：2026年7月10日公表。国内農業統計局(NASS)、農業統計委員会、米国農務省(USDA)。
作付面積、収穫面積、単収及び生産量は、メートル法の単位（tまたはha）で示しており、2025年度及び2026年度に米国が公表したものである。
データは入手可能な最新の推定値であり、最新の報告書または前回の報告書の推定データに基づいている。現行年度の推定は、2026作物年度に関するものである。空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。

● カナダ：2026年6月19日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

本報告書は、カナダ農業食料省の2025/26作物年度及び2026/27作物年度の5月時点での生産見通し報告書を、2026年6月12日までに入手した情報及びそれまでの時点で効力を持つ通商施策に基づいて更新するものである。カナダ産の大部分の作物について、作物年度は8月1日に始まり7月31日に終わる。ただし、トウモロコシ及びダイズについては、作物年度が9月1日に始まり8月31

日に終わる。穀物部門については、地政学上の懸念により生産コストが増加し、輸送網及び供給網に支障が生じる可能性が高まっていることから、市場の不安定性が高まっている。

乾燥エンドウ（抜粋）

2025/26作物年度のカナダの乾燥エンドウの輸出量は、2024/25作物年度に比べて増加して270万tとなる見込みであり、パキスタン、バングラデシュ、中国及び米国への輸出が増加している。8月から4月までの期間のカナダから米国への輸出量は13万3,000tで、米国の乾燥エンドウ生産量が増加したにもかかわらず、前年同時期に比べて大幅に増加している。カナダの期末在庫量は、国内利用量が増加し、輸出需要が強まったにもかかわらず、過去最高記録に達する見込みである。乾燥エンドウの平均価格は、乾燥エンドウ全銘柄について2024/25作物年度の水準に比べて低下する見込みである。

緑色乾燥エンドウの価格は、黄色乾燥エンドウの価格を100ドル/t上回っており、これを2024/25作物年度の208ドル/tと比べるとその差は明らかである。2026/27作物年度の緑色乾燥エンドウの供給量の減少が見込まれているにもかかわらず、5月中を通じて黄色乾燥エンドウ及び緑色乾燥エンドウの生産者価格には変化がなかった。

2026/27作物年度のカナダの乾燥エンドウの作付面積は、前作物年度において収益性が低下したことにより、2025/26作物年度に比べて12%減少して125万haとなる見込みである。州別にみると、サスカチュワン州が乾燥エンドウの作付面積の48%を占めており、アルバータ州が47%を占め、残りの作付面積はカナダ各地に散在している。

生産量は、作付面積が減少した一方で単収が平年並みであったことから、減少して295万tとなる見込みである。生産量の減少分が、過去最高記録と見込まれている期初在庫量によって埋め合わせられる見込みであることから、供給量は11%の減少となる見込みである。供給量が減少したにもかかわらず、輸出量には変わりがなく270万tとなる見込みである。期末在庫量は、減少して61万tとなる見込みであり、前年度に比べて大幅に減少している。平均価格は、2025/26作物年度に比べて上昇する見込みである。

レンズマメ（抜粋）

2025/26作物年度のカナダのレンズマメの輸出量は、2024/25作物年度に比べて大幅に増加して230万tとなる見込みである。主な輸出市場はインド、トルコ及びアラブ首長国連邦である。期末在庫量は、過去最高記録の水準まで増加する見込みである。すべての品種及び等級の平均価格は、前作物年度の水準から低下する見込みである。これは、主に期末在庫量が多いこと及び価格の低下、特に大粒、中粒及び小粒の緑色レンズマメの価格が低下していることによる。2025/26作物年度の大粒緑色レンズマメの価格は、赤色レンズマメの価格を50カナダドル/t上回る見込みである。5月中を通じて、サスカチュワン州産の大粒緑色レンズマメの価格は5ドル/t上昇しており、赤色レンズマメの生産者価格は10ドル/t上昇した。

2026/27作物年度のカナダのレンズマメの作付面積は、前作物年度に比べて6%減少して167万haとなる見込みであるが、これは2025/26作物年度に緑色レンズマメの生産者価格が大幅に低下したことによるものである。サスカチュワン州がレンズマメの作付面積の88%を占め、残りをアルバータ州及びマニトバ州が占める見込みである。生産量は、AAFCの予測によれば、30%減少して235万tとなる見込みである。生産量の減少の一部が、期初在庫量が過去最高記録に達したことで相殺された結果として、供給量の減少はわずかに留まり384万tとなる見込みである。輸出量は、前作物年度に比べて減少して124万tとなる見込みである。期末在庫量は、前作物年度と変わらず30万5,000tとなる見込みである。世界的に供給量が減少しており、最高級の等級の価格が上昇していること、並びにカナダ産レンズマメの等級別の分布が平年並みであるとの予測の中で、平均価格は、2025/26作物年度に比べて上昇する見込みである。

乾燥インゲンマメ（抜粋）

2025/26作物年度のカナダの乾燥インゲンマメの輸出量は増加して前作物年度をわずかに上回る41万tとなる見込みである。米国及びEU諸国が引き続きカナダの乾燥インゲンマメの主要な市場であり、これより少ない量が日本及びメキシコに輸出されている。北米での供給量が増加してきたことで、カナダでの価格の低下が生じている。このような状況から、2025/26作物年度を通じて米国及びカナダの乾燥インゲンマメの価格は抑えられている。

2026/27作物年度のカナダの乾燥インゲンマメの作付面積は、主として他の作物に比べて収益性が低い可能性があることから、2025/26作物年度に比べて31%減少する見込みである。州別にみると、オンタリオ州が乾燥インゲンマメの作付面積の34%を占め、マニトバ州が41%、アルバータ州が17%、残りをサスカチュワン州、ケベック州及び沿海諸州が占める見込みである。生産量は、減少して31万tとなる見込みである。期初在庫量が増加したにもかかわらず、供給量は減少する見込みである。供給量が減少することから、輸出量は減少する見込みである。特にブラック・ビーン及びピントー・ビーンについて、北米での供給量が減少する見込みであることから、カナダの乾燥インゲンマメの平均価格は上昇する見込みである。

ヒヨコマメ（抜粋）

2025/26作物年度のカナダのヒヨコマメの輸出量は、パキスタン、米国及びEU諸国からの輸出需要が強まったことから、増加して24万tとなる見込みである。期末在庫量は重荷となる数量に達する見込みである。平均価格は、前作物年度に比べて大幅に低下するものと予測されている。

2026/27作物年度のヒヨコマメの作付面積は、2025/26作物年度に比べて6%増加する見込みであるが、これは前作物年度において収益性が生産者にとって有利であったことと、輸出需要が強まっていることによるものである。州

表2 カナダの豆類の作付面積・収穫面積・単収その他

	乾燥エンドウ [a]			レンズマメ [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2024-2025	2025-2026 [f]	2026-2027 [f]	2024-2025	2025-2026 [f]	2026-2027 [f]	2024-2025	2025-2026 [f]	2026-2027 [f]	2024-2025	2025-2026 [f]	2026-2027 [f]
作付面積(1,000ha)	1,300	1,420	1,246	1,704	1,772	1,674	163	172	119	194	219	233
収穫面積(1,000ha)	1,281	1,383	1,220	1,693	1,743	1,650	160	171	118	194	218	232
単収 (t/ha)	2.34	2.85	2.42	1.44	1.93	1.42	2.65	2.55	2.63	1.48	2.21	1.47
生産量(1,000t)	2,997	3,934	2,950	2,431	3,363	2,350	424	438	310	287	482	340
輸入量(1,000t) [b]	39	15	20	126	45	75	71	70	70	43	40	40
総供給量(1,000t)	3,335	4,438	3,960	2,722	3,969	3,840	515	548	445	360	584	635
輸出量(1,000t) [b]	2,176	2,700	2,700	1,822	2,300	2,300	402	410	370	210	240	230
国内総利用量(1,000t) [c]	670	748	650	339	254	300	73	73	70	88	89	90
期末在庫量(1,000t)	489	990	610	561	1415	1240	40	65	5	62	255	315
在庫量/利用量(%)	17	29	18	26	55	48	9	13	1	21	78	98
平均価格(\$/t) [d]	405	300	310	790	510	520	1,075	770	850	735	540	500

[a] 作物年度(8月から7月)。

[b] 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c] 国内総利用量=食料及び加工原料用+飼料用副産物+種子用+損耗。国内総利用量は、総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d] 生産者価格(FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

[f] カナダ農業食料省による推定。ただし、2025/26年度の作付面積、収穫面積、単収及び生産量、並びに2026/27年度の作付面積については、カナダ統計局による。

典拠: カナダ統計局(STC)及びカナダ農業食料省(AAFC)。

別にみると、サスカチュワン州がカナダ全体のヒヨコマメの作付面積の大部分を占めており、残りをアルバータ州が占めている。単収が平年並みに戻ったことで、生産量は減少して34万tとなる見込みである。生産量の減少が、期初在庫量が多かったことで相殺されることから、供給量は増加する見込みである。輸出量は減少する見込みであり、期末在庫量は4年連続で増加する見込みである。2026/27作物年度の等級別の分布は平年並みであると予測されており、世界的な供給量が増加する見込みであることから、平均価格は低下する見込みである。

● オーストラリア：2026年6月2日公表 Australian crop report

概観（抜粋）

オーストラリアの2026/27冬作年度の冬作作物の生産量は、前年度に比べて21%減少して5,450万tとなるものと予測されている。この値は、平均単収の低下及び作付面積の減少が見込まれていることを反映したものであり、最近5年間の平均を12%下回っているが、2025/26年度までの10年間の平均と比較すると4%上回っている。燃料価格及び肥料価格が顕著な上昇を示しているにもかかわらず、冬作年度の初めに気象条件に恵まれたことから、西オーストラリア州、南オーストラリア州、ヴィクトリア州及びニューサウスウェールズ州南部では、作物の選択比率に顕著な変化が見られるものの、冬作の作付面積は平年並みに近い値となる見込みである。これと対照的にニューサウスウェールズ州北部及びクイーンズランド州南部では、乾燥状態が続いているため、2026/27冬作年度の作付面積は大幅に減少する見込みである。今後の冬作作物の生育期間中の価格の推移並びに農業資材の入手可能性が引き続き不安定であることから、今後も気象条件の実情及び見通しが2026/27冬作年度の冬作作物の生産の動向がどうなるかの決め手となる。

オーストラリア気象庁が2026年5月21日に公表した最新の3カ月間（6月から8月）降水量予測によれば、クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ヴィクトリア州、西オーストラリア州及び南オーストラリア州といった生産地域では、冬季の降水量が平年並みを下回る可能性が60%から80%となっている。オーストラリア南部の生産地域の大部分で良好な土壌水分含有割合が得られれば、作物の生育について冬季の降水量への依存度は低まるが、作物の生育を支えるだけの降水量は必要である。しかしながら、オーストラリア北

東部の生産地域では降水量が平年並みを下回る見込みであることから、2026/27冬作年度も引き続き生産量の減少の見込まれる。

オーストラリアの2026/27冬作年度の冬作作物の作付面積は、前年度に比べて7%減少して2,360万haと予測されており、この値は、最近5年間の平均を3%下回っているが、2025/26年度までの10年間の平均と比較すると3%上回っている。ヴィクトリア州及び南オーストラリア州で作付面積の増加が予測されているが、クイーンズランド州及びニューサウスウェールズ州での減少がこれを上回っており、西オーストラリア州の作付面積には大きな変化は見られない。

オーストラリアの2026/27冬作年度の冬作豆類の作付面積は、前年度に比べて7%減少して320万haと予測されており、これはヒヨコマメの作付面積が減少したことによるものである。ヒヨコマメの作付面積は前年度に比べて35%減少して73万2,000haとなるものと予測されており、この値は主要なヒヨコマメ生産地域であるニューサウスウェールズ州北部及びクイーンズランド州南部で作付時期の気象条件に恵まれなかったことを反映している。2026/27冬作年度のレンズマメ及びルーピンの作付面積は、前年度に比べてレンズマメが2%の増加、ルーピンが23%の増加と予測されており、これは家畜飼料用の需要が増加していることと、他の冬作作物に比べて肥料の必要が少ないことを反映している。

2026/27作物年度の冬作の豆類の生産量は、前年度との比較では減少しているが、最近10年間の平均を4%上回り、冬作の豆類の生産量として記録史上第7位となる見込みである。しかしながら、肥料の供給が不確実であること、及び冬季の乾燥の可能性が高まっていることから、現時点での予測は下方修正される可能性がある。時宜を得た十分な施肥及び十分な降水が得られることが、現時点での単収の見通しが達成されるために不可欠である。

2026/27作物年度のレンズマメの生産量は3%増加して220万tとなる見込みであり、この値は2025/26作物年度までの10年間の平均の2倍以上となっている。

2026/27作物年度のヒヨコマメ生産量は、主として作付面積の減少により、51%減少して110万tとなる見込みであるが、この値は2025/26作物年度までの10年間の平均に近い値となっている。

表3 オーストラリアの豆類の作付面積及び生産量

作物名	作付面積(1,000ha)			生産量(1,000t)		
	2024-25s	2025-26s	2026-27f	2024-25s	2025-26s	2026-27f
ヒヨコマメ	1,038.5	1,118.5	732.0	2,267.0	2,184.5	1,076.6
ファバビーン(ソラマメ)	401.0	441.0	443.0	749.5	1,020.0	874.7
フィールドビー	193.0	179.0	182.0	228.0	220.6	230.3
レンズマメ	1,036.8	1,201.5	1,224.5	1,265.1	2,151.2	2,208.4
ルーピン	514.5	551.3	677.2	778.0	1,131.2	1,205.3

f: ABARES による予測。

s: ABARES による推定。

注: 作物年度は、4月1日から3月31日までの12カ月に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。面積は穀物用及び種子用の作付面積であって、収穫に至った面積、飼料用として利用された面積及び収穫を断念した面積が含まれる。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)。ABS(オーストラリア統計局)。Pulse Australia。

表4 オーストラリアの州別生産量

冬作物名	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積 (1,000 ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000 ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000 ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000 ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000 ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000 ha)	生産量 (1,000t)
ヒヨコマメ												
2024-25s	580.0	1 280.0	24.0	22.0	420.0	950.0	10.0	9.0	4.5	6.0	0.0	0.0
2025-26s	590.0	1 180.0	8.0	11.0	505.0	975.0	11.0	13.5	4.5	5.0	0.0	0.0
2026-27f	300.0	400.0	6.0	7.0	410.0	650.0	11.0	13.1	5.0	6.5	0.0	0.0
2025/26 作物年度ま での5年間 の平均	352.0	664.2	22.4	28.6	327.7	599.6	9.4	11.1	4.4	5.7	0.0	0.0
フィールドビー												
2024-25s	50.0	65.0	40.0	40.0	0.0	0.0	70.0	65.0	33.0	58.0	0.0	0.0
2025-26s	45.0	58.0	35.0	38.0	0.0	0.0	65.0	69.6	34.0	55.0	0.0	0.0
2026-27f	40.0	50.0	35.0	38.0	0.0	0.0	70.0	81.3	37.0	61.0	0.0	0.0
2025/26 作物年度ま での5年間 の平均	43.4	51.1	40.0	57.1	0.0	0.0	73.0	85.1	34.4	57.0	0.0	0.0
レンズマメ												
2024-25s	35.0	43.0	520.0	650.0	1.3	1.5	470.0	554.6	10.5	16.0	0.0	0.0
2025-26s	75.0	90.0	530.0	925.0	1.5	1.6	580.0	1 113.6	15.0	21.0	0.0	0.0
2026-27f	70.0	80.0	533.0	911.4	1.5	1.5	600.0	1 183.3	20.0	32.1	0.0	0.0
2025/26 作物年度ま での5年間 の平均	30.4	35.8	425.0	720.2	1.2	1.2	406.0	773.6	11.6	18.6	0.0	0.0
ルーピン												
2024-25s	90.0	125.0	35.0	30.0	1.5	3.0	38.0	35.0	350.0	585.0	0.0	0.0
2025-26s	80.0	130.0	34.0	32.0	1.3	2.4	36.0	46.8	400.0	920.0	0.0	0.0
2026-27f	100.0	135.0	36.0	32.0	1.2	2.2	40.0	46.1	500.0	990.0	0.0	0.0
2025/26 作物年度ま での5年間 の平均	66.6	101.5	37.4	38.0	1.2	2.1	39.8	46.0	363.0	728.0	0.0	0.1

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 面積は穀物用及び種子用の作付面積であって、収穫に至った面積、飼料用として利用された面積及び収穫を断念した面積を含む。

生産量は、2015/16作物年度以降は40,000ドル以上に達している営農組織(EVAO)を対象として算出している。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)。ABS(オーストラリア統計局)。Pulse Australia。

表5 オーストラリアの豆類供給量及び利用状況

作物名	2019-20 (1,000t)	2020-21 (1,000t)	2021-22 (1,000t)	2022-23s (1,000t)	2023-24s (1,000t)	2024-25s (1,000t)
豆類生産量 d						
ルーピン	591	866	958	1101	611	778
フィールドビー	210	399	261	314	228	228
ヒヨコマメ chickpeas	235	876	1062	541	491	2267
見かけ上の国内利用量 c						
ルーピン	376	406	400	268	216	450
フィールドビー	165	275	66	186	125	143
ヒヨコマメ e	1	1	1	1	1	0
輸出量						
ルーピン	215	459	557	833	395	328
フィールドビー	48	126	196	129	104	86
ヒヨコマメ	349	879	594	725	518	2059

c：生産量に輸入量を加えた値から、輸出量を引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を引いて算出した値。

d：市場年度は11月から10月までである。

e：見かけ上の国内利用量は、生産量に輸入量を加えた値が輸出量を上回った場合には、1となる。

s：ABARESによる推定。

注：輸出量のデータは、市場年度に基づくものであって、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量の数値と一致しない場合がある。生産量は、2015/16作物年度以降は40,000ドル以上に達している営農組織(EVAO)を対象として算出している。

典拠：ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)。ABS(オーストラリア統計局)。Pulse Australia。